



# 第15回自治体国際交流表彰（総務大臣賞） 受賞団体から学ぶ交流の取り組み

（一財）自治体国際化協会交流支援部交流親善課

クリアでは、自治体の国際交流活動の更なる活性化を図り、地域の国際化に資することを目的として、総務省と共催で、創意と工夫に富んだ国際交流の取り組みを「総務大臣賞」として表彰し、全国に広く紹介しています。

第15回となる2020年度は、有識者からなる審査委員会の審査を経て、下記の3団体が受賞しました。

## 【評価のポイント】

◆特定非営利活動法人 三重県日本中国友好協会  
行政や留学生団体等の連携のハブとして、多様で厚みのある交流が実現できている。植樹活動や少年サッカー交流などを通じて、地道に積み上げられてきた信頼関係、醸成されてきた友好関係がほかの分野にも波及しており、この効果は今後も期待できる。

◆名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会  
国際感覚を持つ人材の育成や異文化交流を通じた地域の活性化を目標に長年取り組んできたことに、国際施策の本気度がうかがえる。継続性にも配慮し、姉妹都市提携50周年を機に、次の50年に向けての計画を策定しており、今後も成果を期待したい。

◆鶴岡・ニューブランズウィック友好協会  
コロナ禍においても相互に知恵を出し合い、新しい国際交流の取り組みやあり方をも提案している。新たな活動に取り組み、それらに多様な市民が主体的に参加していることは、コロナ禍の交流のあり方として、また、休眠状態にある自治体の範になる。

こうした取り組みを参考として、さらに多くの活発な国際交流が生まれることを期待しています。

クリアでは、毎年度秋に当該表彰の募集を行っています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしています。

## 平等で美しい世界へ向けて私たちが できる小さな一歩

特定非営利活動法人 三重県日本中国友好協会（三重県）  
【交流相手先：河南省他（中華人民共和国）】

当協会は1951年に創立し、今年で70周年を迎えました。1986年、当協会の先輩方の仲介支援もあり、三重県と中国河南省が友好関係を締結しました。その後も友好都市卓球大会、植林事業、技能実習生の受入れなど、経済・環境・文化・スポーツと多種多様な交流活動を行ってきました。近年では特に青少年交流に力を入れています。それが日中友好の道を切り拓いた先人の意思を継ぎ、アジアの平和、そして平等で美しい世界へ繋がると信じているからです。

2019年8月には清華大学から、電子学部が日本で学びを広げるために良い場所はないかと相談を受け、三重県へ招待しました。本田技研工業株式会社や株式会社森精機などの企業視察と県内観光、県内の高校生との学生交流は学生に大好評で、「毎年訪れたい」など嬉しい声を頂き「三重ファン」となっていました。また優秀な学生と交流できたことは、県内の高校生達にとっても貴重な経験となったはずです。

2019年12月には中国甘粛省の小学校2校を訪問し、



清華大学生忍者体験（伊賀流忍者博物館にて）



永吉郷河口小学校でのサッカー交流

学用品等を寄付しました。経済的困難が原因で未来を展望できない子供達に、支援活動を通して生きる活力を取り戻してもらいたいからです。こうした活動を通して、経済格差のない平等な世界を目指したいと考えています。私たちができることは小さな規模ですが、その小さな1歩こそ、美しい世界へ繋がる大切な1歩です。

今後はインターネットやSNSを活用しての交流や情報発信を充実させ、青少年交流をはじめとする日中友好交流を推進したいと考えています。これからも、さまざまな活動を通して、両国の架け橋となれるよう努めていきたいと思っています。

## 「末長い交流と友情を誓う」

### 名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会（北海道）

#### 【交流相手先：カワーサレイクス市リンゼイ（カナダ）】

名寄市は、北海道の北部に位置し、国内第4位の長大河川「天塩川」の恵みを受けた自然豊かで、道北の中核都市として発展してきたまちです。

リンゼイ市（現カワーサレイクス市）との交流は、名寄教会のカナダ人宣教師が姉妹都市の提携先を探していた名寄市に、妻の出身地であるリンゼイ市を紹介したことがきっかけとなり、1969年8月1日に姉妹都市提携を結んだことから始まりました。以来、主に両市の市民団体により、親善訪問や交換学生の派遣・受入れなどの人的交流を中心に、草の根レベルでの交流を続けています。

当時北海道で先例のない中、1973年から始まった交換学生派遣・受入事業は、これまでに85名を派遣・受入れしており、当委員会の中心事業となっています。約2か月のホームステイを通じて、異国の生活や文化に触れることにより、語学習得はもとより国際理解や交流事業の次代の担い手としてなど、人材育成面でも大きく寄

与しています。

また、文化的交流として、カーリングが挙げられます。1976年に名寄市民訪問団がリンゼイ市を訪問した際、冬のスポーツとしてカナダで普及しているカーリングの用具をプレゼントされたことをきっかけに、名寄市民がカーリングを始めました。今では名寄市民の冬のスポーツや文化として根付いており、世界に羽ばたくジュニア選手も輩出しています。



お神輿に参加する交換留学生

2019年には、姉妹都市提携50周年を迎え、リンゼイ親善訪問団を受入れました。記念碑除幕式や式典・祝賀会を開催したほか、記念誌発行や漫画制作、イングリッシュキャンプなどの記念事業を実施し、これまで築いてきた交流の歴史を振り返るとともに、次の新たな50年に向けて、末長い交流と友情を誓い合いました。

これからも草の根レベルでの交流を継続し、両地域の絆を深めるとともに、今後の国際交流を担う人材の育成や異文化交流を通じた地域の活性化に努めてまいります。

なお、50周年記念漫画をはじめ、名寄・リンゼイ姉妹都市提携50周年記念事業の詳細については、名寄市の公式サイトで掲載しています。

<http://www.city.nayoro.lg.jp/section/kouryu/prkeql0000027dvl.html>



リンゼイ市民訪問団と「末長い交流と友情を誓う」の文言が刻まれた記念碑の前で

## “山形から世界へ One Heart Project”

鶴岡・ニューブランズウィック友好協会（山形県）

【交流相手先：ニューブランズウィック市・ニューブランズウィック姉妹都市委員会（アメリカ合衆国）】

鶴岡市とニューブランズウィック市は、1960年に姉妹都市盟約を締結しました。60周年にあたる2020年は、訪問団派遣や中学生相互交流事業などさまざまな行事が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響でやむなく中止となりました。直接の交流が難しい中、会えなくても心を1つにして世界難を乗り越えていこうという思いから「One Heart Project」の構想が生まれ、コロナ禍でも実施可能な新たな交流事業がスタートしました。

### ①手作りマスクの送付

アメリカ合衆国の新型コロナウイルス感染率が増加する中、鶴岡市民や各所から手作りマスクの寄贈を募り、「Our Hearts are with you」のメッセージを添えて合計230枚をニューブランズウィック市に送りました。

### ②千羽鶴の送付

感染拡大鎮静化の願いを込め、鶴岡市民1,000人以上が協力して千羽鶴2組（約1800羽）を制作しました。

マスクと共に荘内神社で祈禱を受けて、ニューブランズウィック市へ送りました。



寄贈した手作りマスクと千羽鶴

### ③応援メッセージソング・動画の制作

鶴岡市とニューブランズウィック市民に向け、みんなの心が1つになればどんな困難も乗り越えられるという思いを込めたオリジナル曲「One Heart ~Keyword for the future」を作成しました。メッセージソングに

合わせて市長始め約100人の鶴岡市民が登場する動画を作成し、YouTubeで配信しました。

(<http://youtu.be/BnVTDOPymPs>)



応援メッセージ動画の1コマ

こうした鶴岡の取り組みがきっかけとなり、ニューブランズウィック市の姉妹都市（鶴岡市、福井市、ハンガリー・デブレツェン市、アイルランド・リムリック市）を結んだバーチャルアート展覧会「Art of Diplomacy Exhibition」が提案され、鶴岡から絵画や写真など13点の作品を出展し、オンラインで公開されました。

(<https://www.facebook.com/340159899338487/videos/741432556792952>)

2020年末には、ニューブランズウィック市よりメッセージカードとピンバッジ（約100個）が届きました。ピンバッジには、『NEW BRUNSWICK, TSURUOKA SISTER CITIES 60<sup>th</sup> ANNIVERSARY』の文字が刻まれています。

新型コロナウイルス感染症は日本だけでなく世界中の問題です。この企画を始めたとき、特に感染が拡大していたのがアメリカ合衆国でした。マスクや千羽鶴、動画の制作には当協会の会員だけでなく、できるだけ多くの市民に参加いただきました。その結果、姉妹都市のことを知り、国際交流への意識を持ってくれる人が増えました。企画を進める中で一番うれしかったのは、国際貢献に意欲がある次代を担う20代・30代の若者が趣旨に賛同し、集まってくれたことです。60年に渡る交流の歴史を100年につなげるスタートとなりました。

「One Heart Project」の経験をもとに、困難な時に手を差し伸べる、そんな関係を継続し、両市の交流を推進していきたいと考えています。